「雪村とその時代」展によせて

雪村の「書画図」と「宮女図屏風」

本展では当館所蔵の雪村作品に加え、それと響き合うような作品を京都国立博物館から拝借して展示いたします。たとえば、当館の「書画図」にみる、雪村の、妙に古めかしい幻想の異国の雰囲気を、より深く味わっていただきたいとお借りしたのが「宮女図屏風」（6曲1隻、京都国立博物館蔵）です。

「書画図」〔図1〕は、画面右上に雪村の印が二つ捺された作品で、雪村の初期の作品として知られています。小画面で、モチーフのサイズも小さく、そのうえ、残念なことに全体がくろずんでおり、見るためにはかなりの努力を要しますが、描かれている世界は深く広く、そしてどことなくノスタルジックです。画面の奥から手前に向かって、船がうかぶ広い水面、複雑に流れ落ちる滝のある山、テラスとそこに集う、きらびやかな衣装をまとった士大夫たちが描かれています。むろんこの絵の中心はテラスの人々ですが、それを描くのに、すこし離れた高台から見下ろしているかのような、距離感をもって描かれていることが印象的です。

そして、岩や、人物の衣、器物、家具など、モチーフをかたどる輪郭線には、細い金泥線を添え、岩や山肌、テラスの床面に打たれる点苔も、墨に加えて金泥の点が打ち込まれています。人々のまとう衣には赤、白、水色が使われ、特に赤い衣には輪郭線や模様に金泥が多く使われています。また、今はほとんど褪色していますが、当初は画面の下方や右側の岩にも、青色が塗られていたようです。つまり、この絵は、本来はカラフルで明るい絵でした。

すでに指摘されているように、この絵は中国古代の金碧青緑山水図を慕って、十四～十六世紀に中国で描かれた擬古的な絵画を手本にしているようです。雪村は、どこかで、そうした中国絵画を目にしていたのでしょう。

そして、この「書画図」のテラスの人々を女性に入れ替えて、屏風絵に拡大したような作品が「宮女図屏風」（6曲1隻）〔図2〕です。こちらは、画面に広く金泥を塗布した屏風です。テラスの向こう側の岩間の滝から流れ下ってきた水が、最後に、イソギンチャクの触手のようなしぶきを上げて砕けています。そして、数本の樹木が、身をよじる龍のように、幹をねじり、龍の足の爪に似た尖った枝を突き出しています。こうした、いきものめいた水や木の形からして、尋常ではありませんが手前の樹木や岩の間から、女性たちを見下ろすような視点の設定は「書画図」と同じです。

無落款の作品ですが、江戸時代の狩野派の鑑定（紙中極め）どおり、雪村筆と考えられます。雪村には、同種の主題の双幅の作品「官女図」（個人蔵）があります。当館には、その作品を狩野探幽が写しとった縮図がありますので、それを展示しました。そちらでは、雪村は、手本とした中国絵画をほぼそのまま写すことで、安定した構図の作品に仕上げています。

それに対して、「宮女図屏風」の空間構成は奇妙なほど不安定です。左側の建物は金の霞が充満する中空に浮いているように見え、テラスとのつながりも曖昧です。

建物のなかで、女性たちは、豪華な金の模様の入った布をひろげて見ていますが、品定めをしているのか、それとも、特別な用途のために使う布を選ぼうとしているのか、よくわかりません〔図3〕。よじれた空間構成、何をしているのかわからない人たち、そうしたものを目で追う内に、雪村の幻想世界へひきずりこまれてしまいそうです。

本来、禅僧は厳しい戒律下にあるはずですが、日本の、室町時代の禅林社会では中国の美人図も受け入れられていました。禅僧の詩文集には、「官女図」や「宮女図」に寄せた賛詩を拾えます。詩の題や内容から、読書しながら欠伸する女、鏡を見る女、宵闇に蛍を払う女、寝起きの女、酔った女などが描かれていたことがわかります。そのしどけない状況設定は、さながら江戸時代後期の浮世絵美人図のようです。禅僧の求めに応じて、こうした中国の女性を描く画題もレパートリーのなかに収めておくことは、画僧としての雪村のつとめだったのでしょう。

本展では、参考出品として明時代、十六世紀の伝仇英筆「仕女図巻」を展示しましたが、雪村の描く女性たちの量感豊かな体型は、仇英の柳腰の女性像からはかけ離れており、むしろ、元時代、十四世紀の山西洪洞廣勝寺水神廟の明応王殿壁画に描かれる豊かな体つきの女性たち〔図4〕に似ています。

それにしても、「宮女図屏風」に描かれている女性9人のうち5人までもが、顔を隠すように、後ろ向きに描かれていることが気になります。それは、同時代の狩野派が描いたあでやかな唐美人図にはみられない描き方です。顔を隠す女性たち、それが後宮の女性たちの奥ゆかしさの表現なのか、それとも、雪村の美人図に対する苦手意識の表れなのか、はたまた戒律を気にしての作為なのか、判断に迷うところです。（泉万里）

図版出典
図４：『中国美術全集絵画篇13寺観壁画』文物出版社（1988年）

図1　「書画図」（部分）

図2　「宮女図屏風」（京都国立博物館蔵）

図3

図4

季刊 美のたより No.216
令和3年10月1日
発行　大和文華館

Copyright © The Museum Yamato Bunkakan. All RightsReserved.